

授業科目名	子ども家庭支援論	担当教員名	小島 知子
科目区分	教職・保育に関する科目	施行規則に定める 科目区分 等	保育の本質・目的の理解に関する科目
必修・選択/単位数	必修 / 2単位 (30時間)	授業方法/担当形態	講義 / 単独
開講学年/学期	3年 後期 (3-4期) / 年間開講数 1講座	特記事項	※実務経験のある教員等による授業 乳児院、児童養護施設、児童家庭支援センターにおける児童福祉施設勤務（児童指導員、臨床心理士）、および幼稚園キンダーカウンセラー、小中学校スクールカウンセラー、教育センターなどの実務経験を生かし授業を行う。
授業の概要 及び 全体目標	本科目では現代の子育て家庭を取り巻く社会的状況や家庭の変化について概説し、保育の専門性を生かした子ども家庭支援の意義と基本について理解することを目的とする。また、子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と子ども家庭支援の現状と課題について理解する。		
到達目標	1.子ども家庭支援の意義と役割について理解できる。 2.保育士による子ども家庭支援の意義と基本について理解できる。 3.子育て家庭に対する支援の体制について理解できる。 4.多様な支援の展開と関係機関の連携について理解できる。		
テキスト	子ども家庭支援論演習ブック 松本峰雄監修 (ミネルヴァ書房) 2500円＋税		
参考書・ 参考資料等	「平成29年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領」(株式会社チャイルド本社)		
成績評価の方法	①平常点（受講態度）25% ②課題（授業後のレポート・授業内での発表、グループワークへの取り組み）25% ③理解度・到達度チェック（筆記形式）50%		
授業外（事前・事後）学習の方法、オフィスアワー等	・事前学習については授業時に指示する。 ・事後学習については毎回、コメントシートを提出する。 ・オフィスアワーは授業前後の時間帯で受け付ける。		
授業計画	授業の内容		到達目標番号
第1回	子ども家庭支援とは(pp.1～13) ・授業の進め方（授業外学習を含む）および成績評価の方法について説明する。 ・子ども家庭支援論を学ぶ意義と目的について考える。		①
第2回	子ども家庭支援の内容と対象（教科書 p 14～23） こども家庭支援の内容、子育て支援の内容と対象について学ぶ		①
第3回	保育の専門性を生かした子ども家庭支援と意義について学ぶ（教科書 p 26～35）		②
第4回	子どもの育て意の喜びの共有について学ぶ（教科書 p 38-45）		①
第5回	保護者および地域が有する子育てをみずから実践する力の向上に資する支援について学ぶ（教科書 p 48-57）		①
第6回	保育士に求められる基本的態度について学ぶ 1（教科書 p 60-69） 受容的関わり、保護者との相互理解、信頼関係		①
第7回	保育士に求められる基本的態度について学ぶ 2（教科書 74-86） 関わり信頼関係、関わり方について学ぶ		①,③
第8回	家庭の状況に応じた支援について学ぶ（教科書 88-99） 理解度・到達度チェックテスト（筆記形式）		①,③
第9回	地域の資源の活用と自治体・関係機関等との連携・協力について学ぶ（教科書 102-110）		①,③
第10回	子育て家庭の福祉を図るための社会資源について学ぶ（教科書 116-126）		③,④
第11回	子育て支援施策・次世代育成視線施策の推進について学ぶ（教科書 128-134）		③,④
第12回	保育所等を利用する子どもの家庭への支援について学ぶ（教科書 138-151）		③,④
第13回	地域の子育て家庭への支援について学ぶ（教科書 152-165）		③,④
第14回	要保護児童等およびその家庭に対する支援について学ぶ（教科書 166-174）		③,④
第15回	子ども家庭支援に関する現状と課題およびこれまでのまとめ（教科書 176～186） 理解度・到達度チェックテスト（筆記形式）		①,②,③,④